

友好の町沖縄県本部町から 町内各小学校の児童にアセロラのプレゼント

友好の町として、児童との親善交流事業を行っている沖縄県本部町では、5月12日を「アセロラの日」に制定しています。

アセロラ栽培がさかんな本部町では、およそ20年前から栽培が行われており、アセロラをまちの特産品としてPRしようと、平成11年にアセロラ初出荷の時期に合わせて、5月12日を「アセロラの日」として制定し、町をあげてさまざまなイベントが行われています。

本部町内の各小学校では、毎年「アセロラの日」になると給食にアセロラゼリーが配膳されることから、友好の町である本町の児童にも味わってもらおうと、5月12日に本部町からアセロラゼリーが贈られてきました。



本部町から贈られたアセロラゼリー

届いたアセロラゼリーは、さっそく町内の各小学校の給食に配膳され、本部町からの思わ

ぬプレゼントに各小学校の児童の皆さんも喜んで食べていました。

落合小学校では、アセロラゼリーを食べながら、アセロラの話をして、本部町の話で賑やかな給食の時間となりました。6年生の獅畑もにかさんは、「おいしかったです。梅のような味がしました。」と笑顔で話していました。6月の下旬には、本町の6年生が本部町を訪問することになっており、獅畑さんも今から楽しみにしているようで、「楽しみなことは、ホームステイです。ほかにも美ら海水族館の見学やへびを首に巻いてみたい。」と話していました。



食後のデザートとしてアセロラゼリーを味わいました（落合小学校）

「正伝空手道南風塾」の塾生が全道大会で大活躍

本町幾寅の空手道場「正伝空手道南風塾」（田口桂治塾長）の皆さんが、4月20日に幕別町で開催された第19回全北海道交流空手道選手権大会で、出場した11部門のうち8部門で優勝を含む上位入賞を果たす大活躍をしました。

大会には、流派が異なる全道の空手団体9団体から約100名が出場し、南風塾からは、小学生から大人までの17名が出場しました。試合は「型試合」と「組手試合」の2種目行われ、「型試合」一般の部では、出場した3選手が1位から3位を独占。優勝した西梅慶臣さん（24歳・上川南部森林管理署勤務）は、20歳から空手を始め、現在は2段の腕前。「この大会を

目指して練習を積んできたので、その成果がありました。」と優勝を喜んでいました。また、「組手試合」では、小学校4・5年生女子の部で金澤実紅里さん（幾寅小学校5年）が初めての大会出場で大活躍を果たしました。「決勝では、日頃一緒に練習している黒田莉奈さん（幾寅小学校5年）との対戦だったので、少しやりにくかった。」と話していました。

塾生の活躍に田口塾長は、「初めての大会出場となった子どもたちも多かったがとてもいい経験になりました。皆が礼儀正しく頑張ってくれたことが何よりも嬉しかった。」と話していました。

南風塾には、現在、小学校1年生から一般成人までの27名が所属し、週2回町民体育館の道場で練習を行っています。田口塾長は、「最終的には、全日本の大会に出場することが目標です。」と決意を新たにしていました。

